

本東寺は建武2年(1335年)3月23日行藤山大日寺別当であった甲斐法橋隆覚了真の二男、薩摩法印のちの薩摩阿闍梨日叡上人の開山となっている。

日叡上人は、日向・豊後・薩摩に寺院100余ヶ寺を建立した。その功績は、佛法功績第一なりと賞賛され、日向の地に第五代の法脈を立てた。応安2年(1369年)8月5日に61歳にて入寂された。境内には宮崎県三梅の一つ「慧日梅」があり、法輪の枝をひろげている。

本東寺の沿革

「山門をくぐるやがてもかほりきぬ

法のみ庭の白梅の花」

片寄角太郎翁の詠歌は、弘暁六時の梵鐘の音に和して、
いとも知れぬ曼荼羅華を万人に雨降らし、
松尾の山より我此土安穩を願う県下有数の霊山である。



①山門

元禄2年(1689年)に本堂と同じく、有馬直純公により建築された。たて2間半(4.5m)、横2間(3.6m)、建坪5坪(16.5㎡)。作者は豊後竹田萬掾(ぶんごたけたばんじょう)と伝えられている。



②藤江・江尻両江の墓碑

境内墓地の最東の一隅にあり、藤江監物(法名、妙法藤江院明監日正居士)を中心に妻、縫と喜越の墓が、左右より取り囲み、監物の三男、四男の墓も同じ場所にある。江尻喜多衛門(法名、常照院法観日諦居士)家族の墓もある。戒名が日蓮宗のものであり、延岡藩主牧野公の家臣に信者が多かったことが伺える。



③鐘楼堂(鐘つき堂)

天保12年(1841年)に再築、建坪2坪2合5勺(7.4㎡)、梵鐘は昭和53年(1978年)に再鑄(口径2尺8寸(85cm)重量200貫(750kg))山門、鐘楼堂ともに昭和53年12月に改修した。

本東寺 慧日梅へ



④有馬公一族の墓碑

有馬氏は慶長19年(1614年)キリシタン大名修理太夫晴信の子、佐衛門直純が肥前高来から延岡に5万3000石(7,950石)にて襲封。その後、康純となり、永純と続くが、この永純のとき領内山陰村(今の日向市東郷町山陰)の百姓逃散(ひやくしょうちょうさん)の治世を問われて、元禄5年(1692年)無城の地、越後国糸魚川に転封されたが、越前丸岡城(福井県坂井市)に入ることを許された。

④有馬康純公夫妻の墓

(延岡有馬二代藩主)山門を入るとすぐ右側に、高さ3m、幅1mほどの墓が目に入る。康純公の法名は嘉祥院殿撤洞宗通大居士、元禄5年(1692年)壬申4月12日死去。また、この墓碑供養五輪塔には清口院殿淨心日相。康純公の妻の法名は妙祥院殿寛園日叡大禅尼、正保2年(1645年)10月28日死去。この供養五輪塔には幸運院殿寿真日永とあり、おそらく城主永純公夫妻の献塔と思われる。



⑤本堂

前の本堂は元禄2年(1689年)有馬直純公の寄進であったが昭和47年(1972年)4月8日、日蓮大聖人生誕750年を記念して新築された。鉄筋コンクリート、一部木造瓦葺で建築面積75坪(248㎡)。



⑥日向御前の五輪塔

日向御前は徳川家康と織田信長の曾孫であり、本多美濃守忠政が父である。延岡初代藩主、有馬直純公の正室である。この日向御前は、当時女人禁制であった、愛宕山に登山するなど、いろいろなエピソードがあることで有名であるが、キリシタンを父に持つ直純公の妻として、譜代大名の地延岡での功績は大きかった。五輪石は本堂の南側にあり、火・風・空のみ(地・水がない)であるが、大きな笠石は大地に苅むしている。本堂は、福井県坂井市(延岡市と姉妹都市の関係にある。)にある。

本東寺年中行事

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1月 2日…新春祈祷会・大黒祭 | 8月 7日…施餓鬼会 |
| 2月 2日…星祭節分会 | 8月13~15日…盂蘭盆会 |
| 3月21日…春彼岸会 | 9月23日…秋彼岸会 |
| 4月 8日…花まつり(釈尊降誕会) | 10月13日…御会式(日蓮大聖人涅槃会) |
| 5月 5日…鬼子母神大祭 | 12月31日…除夜の鐘 |

*毎月2日…盛運祈願祭